

千歳桜

令和5年 第13号
会津美里町立新鶴中学校だより
令和6年1月15日
発行者 校長 本多 康弘

新教育目標

新鶴小学校と新鶴中学校は令和6年4月より小中一貫校へ

豊かな心を持ち、自ら学び行動し、たくましく生きる

新しい年がスタートしました

新年、そして3学期始業式の日を迎えることができました。生徒の皆さん、保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。今年もよろしく願い申し上げます。

また、元日には能登半島地震が発生しました。日常を送ることの大切さを改めて感じています。被災された皆さんには、心からお見舞い申し上げます。復興をお祈りしております。

さて、始業式では生徒代表3名のみなさんが、3学期への取り組みや新年の抱負・決意等を発表しました。新しい年の始まりですので、夢や希望を持って1年を過ごしたいものです。そのうち、特に3学期は1年間のまとめの学期です。そして、進級や進学のための次のステップとする学期です。特に、3年生においては義務教育の終了となります。いよいよ自ら学ぶ門をくぐるための進路実現に向けた大切な時期です。

先日、大学入学共通テストが行われました。このテストには、「知識・技能を活用して思考力、判断力、表現力」を問うという問題作成の基本的な考え方が出題方針にあります。どの教科も理解の質が問われる問題であり、身に付けた基本的な知識を活用し、限られた時間内で問題中の文章や図表、資料などを正しく把握し、問題の意図を正しく理解した上で解答を導く必要があります。加えて、このテストでは多くの資料や図表、グラフなどを読み解いて考える問題、複数の文章や資料を題材として考察する問題が多く、読み取りや正解を導くために時間を必要とします。

こうした問題を解くためには、長い文章を読んだり図表の意味を理解したり、それらに関連付け、比較、分析する力が必要であり、身に付けた知識や技能を活用して限られた時間内で正解を出す必要があります。単なる暗記やドリルで身に付けた知識と技能だけでは解けないようです。その一方で、中学校での学習事項から解答を導き出せる問題もありました。

これは大学入試共通テストの話ですが、福島県立中学校や県立高等学校入試を含めて、小学校・中学校の学習も「思考力、判断力、表現力」を重視した内容に変化してきています。普段から、見るもの、聞くものに対して「なぜ？どうして？」と関心をもち、「どうすればいいのだろうか？」などと考え、それを理解するための行動を起こす必要があります。それが「学びに向かう力」ともいえることができると思います。

「なぜ学ぶのか？」という問題の答えは、一人一人異なっていると思います。人は学びながら生きていきます。この度の地震においても、大学受験を控えた高校生、学校が避難所になった小学生や中学生が、学ぶことをとおして「自分のこと、友達や両親のこと、将来のこと、社会のこと、幸せのこと」を口にしていました。「思考力、判断力、表現力」だけではありませんが、これからの未来社会に生きていくための学びに向かう力を高めてほしいと思います。



